

「第 3 次会津若松市食育推進計画」の方向性について

健康増進課

1 趣旨

会津若松市食育推進計画は、食育基本法（平成 17 年法律第 63 号）第 18 条第 1 項に規定する市町村食育推進計画であり、会津若松市第 7 次総合計画の政策目標「安心、共生のくらしづくり」との調和や、市健康増進計画「健康わかまつ 21 計画」との整合性を図りながら食育の推進に関する施策の方向性を示すものです。

第 2 次計画は、令和 3 年から令和 7 年までの 5 年間を計画期間とし、ライフステージに応じた施策によるこどもから成人、高齢者まで切れ目ない食育の推進など、各種施策を進めてきました。

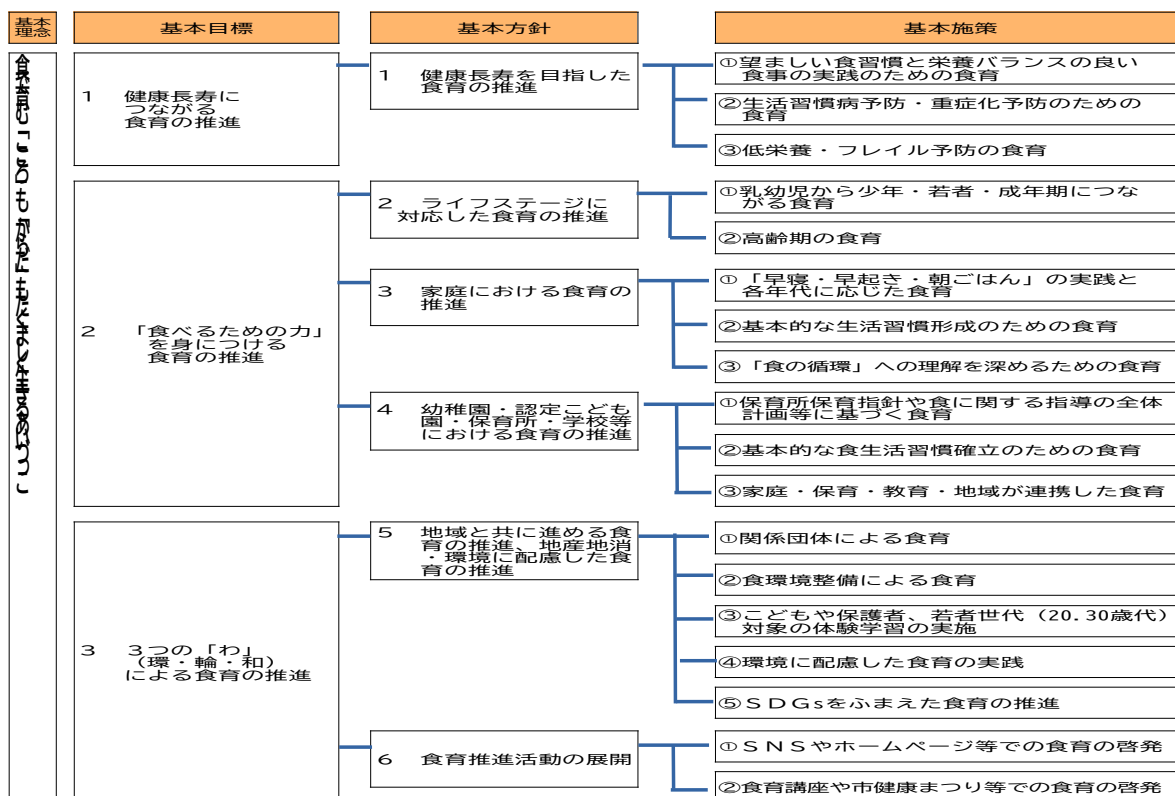
本年度が第 2 次計画の終期となることから、食の状況調査（市民アンケート）による現状把握や課題及び各取組目標値の達成状況の評価とともに食育ネットワーク会員等をメンバーとしたワーキンググループからの意見聴取による現行計画の総括を踏まえ、第 3 次計画の方向性について報告するものです。

2 第 2 次計画の総括

(1) 計画期間

令和 3 年から令和 7 年までの 5 カ年計画

(2) 計画の体系



(3) 食状況調査(市民アンケート)の結果（調査期間：令和7年4月～5月）

令和7年度に終期を迎える現行計画について、これまでの取組の成果や課題、現状を把握するとともに、次期計画策定の参考資料とするため市民アンケートを実施しました。

① 市立中学3年生

区分	抽出方法・配布方法	調査方法	配布総数	回収数	回収率
アンケート方法	全11校・オンライン	オンライン	899人	749人	83.3%
調査内容	朝食摂取状況、共食、肥満につながる食習慣、運動状況、メディア使用時間、食事を自分で用意する力、郷土料理への意識 等				

② 20～80歳代

これまで実施した市民アンケートとの整合性を図り、食に関する意識や行動の傾向を幅広く把握し、各年代の課題や世代間の意識の差を明らかにするため20～80歳代までを調査

区分	抽出方法・配布方法	調査方法	配布総数	回収数	回収率
アンケート方法	無作為抽出（各世代男女別）・郵送	郵送 オンライン	2,400人	973人	40.5%
調査内容	朝食摂取状況、食育への関心、共食、肥満につながる食習慣、運動状況、地産地消への意識、食品ロス削減への意識、郷土料理への意識 等				

対象年代 (基準日：令和7年3月1日)	送付数内訳		有効回答数（年代別回答率）構成比	
	男性	女性	男性回答数	女性回答数
20歳代	200人	200人	81 (20.2%)	8.4%
			35	46
30歳代	200人	200人	113 (28.2%)	11.6%
			37	76
40歳代	200人	200人	132 (33.0%)	13.6%
			48	84
50歳代	200人	200人	156 (39.0%)	16.1%
			59	97
60歳代	150人	150人	165 (55.0%)	17.0%
			76	89
70歳代	150人	150人	200 (66.6%)	20.6%
			100	100
80歳代	100人	100人	123 (61.5%)	12.7%
			69	54
合 計	1,200人	1,200人	970 (40.4%)	100%
			424	546

※ 現行計画作成時と同様に、アンケート回答者が特定の年代に偏らないようにするため、60～80歳代よりも20～50歳代に多くアンケートを送付している。

③ 結果は別紙のとおり 資料1

④ 分析

＜市立中学３年生＞

- 約 84%のこどもが毎日の朝食を食べる習慣を身につけている。また、主食とおかずを組み合わせた食事を自分で用意できるこどもも多く、中学生の食事準備能力は、全体的に見ると高い。しかし、約 15%のこどもは基本的な食事を購入・調理できない。朝食または夕食を誰かと一緒に食べるこどもは 94%以上で、多くのこどもが基本的に誰かと一緒に食事しており、家庭や社会における共食の習慣が比較的維持されている。

＜20～80 歳代＞

- 多くの方が毎日の朝食を食べる習慣を身につけており、バランスのよい食事をしているが、朝食では偏った食事が目立つ。また、夕食では比較的バランスがよい一方で、「おかずのみ」が朝よりも多くなっている。
- 減塩に対する意識は、男性の 77.6%、女性の 87.7%が持っている。年代別では、特に 20 歳代、30 歳代で減塩意識が低い傾向がある。また、男性よりも女性の方が、60 歳代以降の方が減塩に取り組んでいる傾向がある。
- 自分の適正体重を認識している人は、全体の 62.7%だった。
- ふだんから栄養バランスや減塩に気をつけた食生活を実践している人は全体の 70.6%であり、実践しない理由として多かったのは、仕事や家事で時間がないこと、興味・関心がないことだった。
- 食育への関心は、20 歳代では関心が比較的低く、特に関心がない人が多いことが特徴だった。20 歳代で関心がある、または、どちらかといえば関心がある人が 60.5%であり、30 歳代から関心がある人が増え、70 歳代では 84.0%になる。

(4) ワーキンググループ会議の開催

- ① 目的 食育推進計画に様々な年代、立場の意見を幅広く反映するため

② 開催日時

第 1 回目：令和 7 年 3 月 6 日（木） 13:30～16:30 15 名

第 2 回目：令和 7 年 6 月 24 日（火） 13:30～16:30 20 名

③ 参加者等

保育園、こども園、中学校、企業、飲食店、会津大学、会津短期大学部、福島県立博物館、福島県栄養士会、福島県中小企業家同友会会津支部、食生活改善推進協議会、農家

- ④ 主な意見は別紙のとおり 資料 2

(5) 食育あいことば「食のあいづっこ」

- 第2次計画において、家庭・地域・関係機関などと共有し、地域全体で連携しながら食育に取り組むためのスローガンを設定しました。この名称や内容は、食育ネットワークや健康づくり推進協議会、庁内関係課等と検討を重ねて決定したものであり、多くの人の思いが込められています。市民一人ひとりがそれぞれの立場から行動をおこしていくための行動指針として、第3次計画で広く普及させていきます。

※ 食育ネットワーク：市食育推進計画の目標に賛同し、地域の人々の健康を向上させ、地域の発展を促進するために、産学官が協力して食育の活動を進めることを目的に設立された団体

会津若松市食育あいことば「食のあいづっこ」

食	食への感謝は「いただきます」と「ごちそうさま」
の	のぞましい食生活は腹八分目と栄養バランス
あ	あさごはんを毎日の習慣に
い	いちにち1回は食事をともに
づ	つたえよう会津の食文化
っ	つなげよう「もったいない」の言葉を未来に
こ	こどもも大人もみんなで減塩

キーワード
感謝
健康
朝ごはん
共食
会津の食文化
環境への配慮・食品ロス削減
減塩

- 「あいづっこ」は、こどもだけでなく、大人も含めた会津人の姿を指し、年代や性別にとらわれない食生活の基本及び本市における食生活の課題解決に向けた内容とする。
- 本市における食生活の課題の解決に向け、食の基本として7つのスローガンを連ねたものとする。
- 食は、喜びであり楽しみでもあることから、肯定的な表現を用いる。

(6) 評価項目の達成状況

現行計画に掲げた取組目標 18 項目の達成状況は、市民アンケートや各主事業の実績から以下のとおりとなっています。

① 達成状況の評価方法

目標値と最終評価値を比較し、S、A、B、Cの4段階で判定した達成割合

計算式 (最終評価値－基準値) ÷ (目標値－基準値) = 達成割合

基準値 第2次会津若松市食育推進計画策定時の直近値

≪評価の判定基準≫

S：目標を100%以上達成又は増加

A：80%以上達成

B：50%以上 80%未満達成

C：50%未満又は減少

－：基準値未設定や直近値が未公表で評価困難

	項目	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値	評価
健康長寿	主食とおかずを組み合わせた食事を自分で用意できる青少年（中学3年生）	83.9% (R3)	83.9%	-	84.3%	-	84.2%	増加	S
	早食い習慣のある成人	36.7% (R2)	-	-	39.4%	-	39.6%	30%	C
	寝る前の飲食習慣のあるこども（中学3年生）	57.2% (R元)	46.8%	-	59.6%	-	71.0%	50%	C
	なんらかの適塩行動がある成人	38.9% (R2)	-	-	38.2%	-	38.0%	45%	C
「食べるための力」を身につける	朝食または夕食を誰かと一緒に食べるこども（中学3年生）	96.5% (R3)	96.5%	-	94.2%	-	94.5%	増加	C
	栄養相談利用者数（電話・窓口栄養相談数）	89件 (R2)	50件	32件	38件	62件	-	200件	C
	甘い飲みものの摂取習慣のあるこども（3歳児）	47.0% (R2)	42.1%	42.7%	42.1%	40.9%	-	40%	A
	甘い飲みものの摂取習慣のある成人	13.1% (R3)	-	-	23.1%	-	12.4%	10%	C
	朝食または夕食で「主食とおかず」を組み合わせた食事を食べる成人	77.2% (R2)	-	-	75.6%	-	90.1%	80%	S
	朝食を食べるこどもの増加（中学3年生）	82.4% (R3)	82.4%	-	77.4%	-	84.0%	増加	S
	学校給食で食材利用・地元農産物利用割合	54.3% (R2)	54.5%	53.5%	51.4%	52.1%	-	55%	C
3つの「わ」（環・輪・和）	食育ネットワーク参加団体数	29団体 (R2)	29団体	29団体	29団体	29団体	28団体 2個人	40団体	C
	郷土料理（こづゆ）を作ったことがあるこども（中学3年生）	28.8% (R3)	28.8%	-	31.5%	-	33.0%	増加	S
	郷土料理（こづゆ）を作ったことがある成人	52.1% (R2)	-	-	53.8%	-	45.4%	60%	C
	農林業体験交流人口	6046人	2489人	3183人	2862人	3418人	-	6750人	C
	1人1日あたりの排出量（ごみの総排出量）	1241g (R2)	1231g	1229g	1176g	1149g	-	970g	C
	食育関連ホームページアクセス数	10,328件 (R2)	26,437件	26,312件	25,431件	36,523件	-	20,000件	S
	食育に関する講座やイベント等の参加者数	37529人 (R2)	20859人	20365人	27223人	39171人	-	増加	S

<18 項目の達成状況>

評価	合計	割合
S	6 項目	33.3%
A	1 項目	5.6%
B	0 項目	0%
C	11 項目	61.1%
合計	18 項目	100.0%

(7) 最終評価(案)

取組目標の達成状況やワーキンググループ会議での意見等を踏まえた現行計画の総括は次のとおりです。

【基本目標1 健康長寿につながる食育の推進】

- 健康長寿の実現には、日々の食習慣の積み重ねが大切です。中学生では、家庭や学校での取組により、主食とおかずを組み合わせた食事を自分で準備できる子どもが多く、取組の成果が見られます。一方で、大人の早食いや減塩意識の低下、こどもの寝る前の飲食の増加など、肥満につながりやすい生活習慣が増えています。課題解決に向け、今後は、生活に寄り添い、健康づくりの実践につながる有効なアプローチ方法や環境づくりが必要です。

【基本目標2 「食べるための力」を身につける食育の推進】

- 健康的な食生活は、何をどれだけ、いつ・どこで・誰と食べるかといった日々の選択の積み重ねで成り立ちます。本市では、各ライフステージで「選択する力」を育てる食育を進めてきました。今後も選択力を高め、健康づくりを進めていく必要があります。
- バランスのよい食事は健康的な生活の基本です。多くの人が自分の体調や生活に合わせた食を選択する力が身についています。また、多くの家庭で団らんの時間が確保されており、食事マナーなど場や状況にふさわしい振る舞いができる力も育まれています。一方で、甘い飲み物の摂取頻度や量を自分の体に合わせて選択する力や、こどもの朝食摂取と関りがある、自分の生活リズムを整え、日々の健康に必要な行動をとる力には課題があります。

【基本目標3 3つの「わ」（環・輪・和）による食育の推進】

- 食の循環や環境に配慮する「環」では、ごみの排出量が目標には届いておらず、取組の強化が必要です。しかし、排出量は減少に向けた取組により一定の成果を上げました。
- 家族や友人と食卓を囲む「輪」では、料理体験教室を通じて地域での交流を深め、毎月19日の「食育の日」には、食生活改善推進員の養成講座を実施するなど、地域の健康づくりを進めてきた結果、各種イベント参加者や情報へのアクセス数は増加しており、関心の高まりが見られています。
- 主食に主菜、副菜を組み合わせる日本型食生活の実践と和食の伝統、郷土の食材への理解や食文化を次世代に伝える「和」では、食育出前講座や食育ネットワーク事業、食生活改善推進員事業をとおして日本型食生活の実践や郷土料理「こづゆ」などの食文化への理解と継承を進めてきました。今後も、日本型食生活の実践や食文化の継承について、特に、若い世代への働きかけを強化していきます。

3 第3次期計画の方向性について

現行計画の総括や取組目標の達成状況等を踏まえた方向性（案）は、次のとおりです。

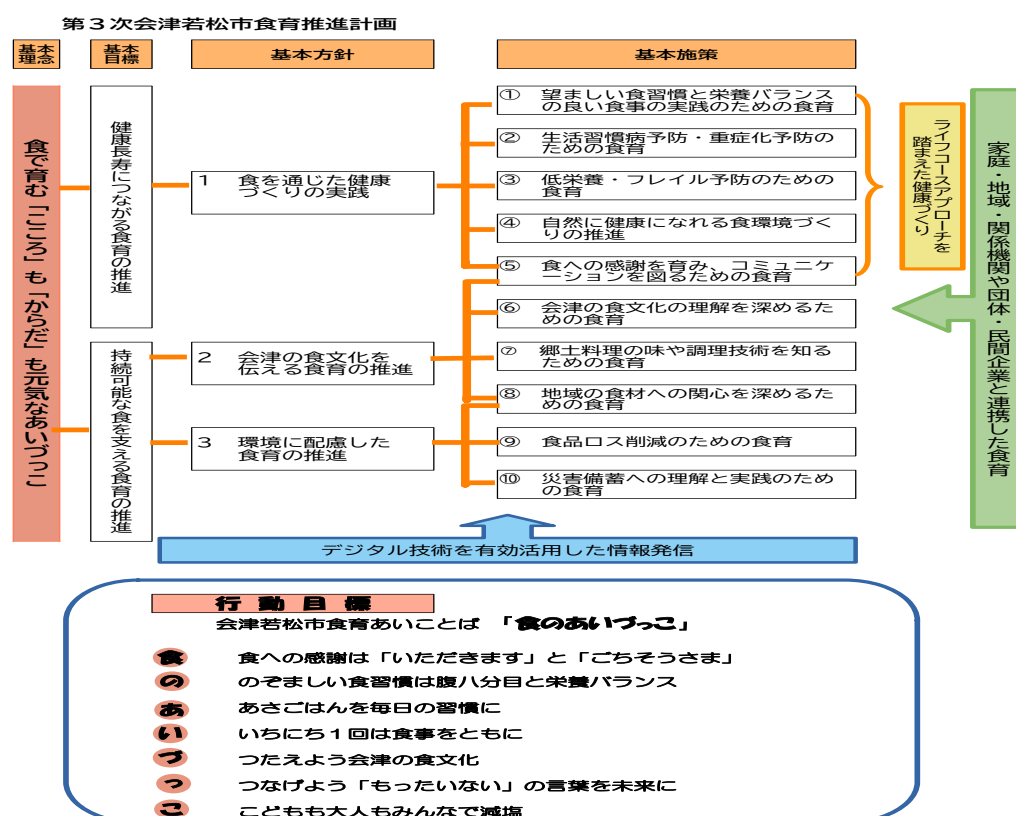
(1) 方向性(案)

- 第2次計画を策定して令和2年から始まった新型コロナウイルス感染症は、食育にかかる生活基盤に大きな影響を与えていましたが、現在では、その影響が少なくなりました。しかし、食をめぐる環境の変化や栄養の偏り、食習慣の乱れに起因する生活習慣病の増加など、依然として多くの問題が存在しています。このため、特別な状況に対応していた第2次計画の基本理念「食で育む『こころ』も『からだ』もたくましく生きるあいづっこ」から、再び「食で育む『こころ』と『からだ』の元気なあいづっこ」に立ち戻ります。
- 現行計画と同様に、「食育」を通じて市民同士がつながりを強化し、食に関する正しい知識の普及と実践を通じて健康づくりを促進します。また、食文化の継承や食環境に配慮した食育を基本方針とする予定です。さらに、市民の意見等を踏まえ、基本目標や基本方針、基本施策をより分かりやすく、取り組みやすい体系に整理・再構成します。
- 新しい取組の視点として、※ライフコースアプローチの視点を踏まえ、さらに災害に備えた家庭での食の備えの啓発や、デジタル技術を有効活用した情報発信等による食育も推進していきます。

※ ライフコースアプローチ：胎生期から高齢期に至るまでの人の生涯を経時的に捉えた健康づくり

(2) 基本方針(案)

- ① 食を通じた健康づくりの実践
- ② 会津の食文化を伝える食育の推進
- ③ 環境に配慮した食育の推進



4 今後のスケジュール（予定）

7月30日(水) 健康づくり推進協議会
8月19日(火) 文教厚生委員会協議会
8月～9月 素案作成
9月30日(火) ワーキンググループ会議
11月 文教厚生委員会協議会
12月 パブリックコメント実施
令和8年2月 健康づくり推進協議会
3月 第2次計画策定

第3次

資料1

食状況調査(市民アンケート)の結果(抜粋)

① 中学生

・朝食の摂取状況

	毎日	週に2-3日食べない	週に4-5日食べない	ほとんど食べない	未入力	計	有効回答数
合計	629	67	14	39	0	749	749
割合	84.0	8.9	1.9	5.2	-	-	

・朝食を食べない理由

	食べる時間がない	食べたくない	食べるのが面倒	その他	未入力	計	有効回答数
合計	56	21	32	11	0	120	120
割合	46.7	17.5	26.7	9.2	-	-	

・毎日朝食を食べるために必要だと思うこと

	朝早く起きること	夜早く寝ること	夜の過ごし方を改善	家に朝食が用意されていること	朝、食欲があること	夕食や夜食を食べすぎないこと
合計	57	12	7	2	20	2
割合	47.5	10.0	5.8	1.7	16.7	1.7

	朝食を食べる習慣があること	朝食を食べるメリットを知っていること	手軽に朝食をとる環境	ダイエットの必要がない	その他	計	有効回答数
合計	13	3	3	0	1	120	120
割合	10.8	2.5	2.5	0.0	0.8	-	

・共食の状況(朝食)

	家族	ひとり	その他	未入力	計	有効回答数
合計	425	314	10	0	749	749
割合	56.7	41.9	1.3	-	-	

・共食の状況(夕食)

	家族	ひとり	その他	未入力	計	有効回答数
合計	693	54	2	0	749	749
割合	92.5	7.2	0.3	-	-	

・就寝前2時間以内の飲食の状況

	毎日	週に3～4日	週に1～2日	ほとんど食べない	未入力	計	有効回答数
合計	153	151	228	217	0	749	749
割合	20.4	20.2	30.4	29.0	-	-	

・甘いお菓子の摂取状況

	毎日	週に3～4日	週に1～2日	ほとんど食べない	未入力	計	有効回答数
合計	169	253	262	65	0	749	749
割合	22.6	33.8	35.0	8.7	-	-	

・甘い飲みものの摂取状況

	毎日	週に3～4日	週に1～2日	ほとんど食べない	未入力	計	有効回答数
合計	153	178	249	169	0	749	749
割合	20.4	23.8	33.2	22.6	-	-	

・テレビ、DVD、インターネット、ユーチューブなどの視聴時間

	30分未満	1時間未満	2時間未満	3時間未満	5時間未満	5時間以上	未入力	計	有効回答数
合計	21	51	250	228	109	90	0	749	749
割合	2.8	6.8	33.4	30.4	14.6	12.0	-	-	

・就寝時間

	21時前	21～22時前	22～23時前	23～24時前	24時以降	未入力	計	有効回答数
合計	15	111	241	267	115	0	749	749
割合	2.0	14.8	32.2	35.6	15.4	-	-	

・自分ひとりで作ることができる料理

	ごはん	みそ汁	卵料理	その他	未入力	計	有効回答数
合計	420	385	547	179	0	1,531	749
割合	56.1	51.4	73.0	23.9	-	-	

・主食とおかず(主菜・副菜)を組み合わせた食事を自分で用意できるか

	調理できる	購入できる	自信がない	未入力	計	有効回答数
合計	395	459	110	0	964	749
割合	52.7	61.3	14.7	-	-	

・会津の郷土料理「こづゆ」を食べたことや作ったことがあるか

	食べたことも作ったこともある	食べたことがあるが作ったことはない	食べたことも作ったこともない	未入力	計	有効回答数
合計	247	489	13	0	749	749
割合	33.0	65.3	1.7	-	-	

「こづゆ」を作った経験場所

	家庭	学校	その他	未入力	計	有効回答数
合計	172	117	6	0	295	247
割合	69.6	47.4	2.4	-	-	

② 20～80 歳代

・食育への関心

	関心がある	どちらかといえば関心がある	どちらかといえば関心がない	関心がない	わからない	無回答	計	有効回答数
合計	322	440	99	63	45	4	973	969
割合	33.2	45.4	10.2	6.5	4.6	-	-	

・朝食の摂取頻度

	毎日食べる	週に4～5日は食べる	週に2～3日は食べる	ほとんど食べない	無回答	計	有効回答数
合計	798	48	35	85	7	973	966
割合	82.6	5.0	3.6	8.8	-	-	

・朝食を食べない理由

	食べる時間がない	食べたくない	食べるのが面倒	その他	無回答	計	有効回答数
合計	61	45	28	34	0	168	168
割合	36.3	26.8	16.7	20.2	-	-	

・減塩の意識

	意識して塩分控えめにしている	意識しているが塩分控えめにしていない	意識していない	無回答	計	有効回答数
合計	530	281	150	12	973	961
割合	55.2	28.9	15.4	-	-	

・麺類を食べる時に、どのくらいスープ・汁をどのくらい残すか

	ほとんど飲まずに残す	2/3くらい残す	半分くらい残す	ほとんど全部残さない	わからない	無回答	計	有効回答数
合計	200	261	306	192	10	4	973	969
割合	20.6	26.9	31.6	19.8	1.0	-	-	

・外食と比べた、家庭での味つけ

	薄い	同じくらい	濃い	わからない	無回答	計	有効回答数
合計	543	314	46	64	6	973	967
割合	56.2	32.5	4.8	6.6	-	-	

・食べる速度

	かなり速い	やや速い	ふつう	やや遅い	かなり遅い	無回答	計	有効回答数
合計	75	309	415	130	40	4	973	969
割合	7.7	31.9	42.8	13.4	4.1	-	-	

・就寝前2時間以内の飲食の状況

	毎日	1週間に3～4日食べる	1週間に1～2日食べる	ほとんど食べない	無回答	計	有効回答数
合計	76	136	265	469	27	973	946
割合	8.0	14.4	28.0	49.6	-	-	

・生活習慣病の予防や改善のための食生活の実践(栄養バランス・減塩)

	実践している	実践していない	無回答	計	有効回答数
合計	674	280	19	973	954
割合	70.6	29.4	-	-	

・食生活で感じている問題点

	バランスが悪い	欠食	間食	食べ過ぎ	市販品が多い	カップ麺・インスタント食品が多い	食事時間が不規則	なし	その他	無回答	計	有効回答数
合計	274	33	239	287	151	99	123	245	42	18	1,511	955
割合	28.7	3.5	25.0	30.1	15.8	10.4	12.9	25.7	4.4	-		

・食生活の悩みや不安

	悩みや不安を感じている	わからない	悩みや不安を感じていない	無回答	計	有効回答数
合計	338	148	475	12	973	961
割合	35.2	15.4	49.4	-	-	

・食生活の悩みや不安の内容

	自分の健康	家族の健康	自分の食生活	家族の食生活	家計や食費	食品の安全性	将来の食糧自給	食文化の継承
合計	333	271	176	160	214	107	74	26
割合	71.0	57.8	37.5	34.1	45.6	22.8	15.8	5.5

	環境への影響	情報の氾濫	わからない	その他	無回答	計	有効回答数
合計	60	20	24	11	17	1,493	469
割合	12.8	4.3	5.1	2.3	-	-	

・食生活の悩みや不安がある時の相談先

	市役所	家族	知人・友人	保健課認定こども園・学校等	高齢者施設等	インターネット	かかりつけ医	相談先がない	その他	無回答	計	有効回答数
合計	8	203	128	7	5	142	78	72	13	53	709	433
割合	1.8	46.9	29.6	1.6	1.2	32.8	18.0	16.6	3.0	-	-	

・会津の郷土料理「こづゆ」を食べたことや作ったことがあるか

	食べたことも作ったこともある	食べたことはあるが作ったことはない	食べたことも作ったこともない	無回答	計	有効回答数
合計	330	383	14	246	973	727
割合	45.4	52.7	1.9	-	-	

・食品ロス削減のための行動

	行動している	行動していない	無回答	計	有効回答数
合計	433	115	425	973	548
割合	79.0	21.0	-	-	

・万が一の災害に備えての食品の備蓄方法、ローリングストックを知っているか。

	知っていて実践している	知っていて実践していない	知らないが実践している	知らないが実践していない	無回答	計	有効回答数
合計	67	208	33	85	580	973	393
割合	17.0	52.9	8.4	21.6	-	-	

・万が一の災害に備えての食品の家庭備蓄状況

	備蓄している	備蓄していない	無回答	計	有効回答数
合計	109	281	583	973	390
割合	27.9	72.1	-	-	

資料2

第3次会津若松市食育推進計画策定に向けたワーキンググループ会議

主な意見（抜粋）

項目	内容
朝ごはん	○ 給食だよりなどで「早寝・早起き・朝ごはん」の土台づくりを促す ○ 朝食をとる重要性を再確認できる体験型講座を開催してはどうか ○ 親子で参加できる調理体験の場づくりができればよい ○ 調理に不慣れでもできる方法を紹介したらどうか ○ 「素材の保存方法」「冷凍・常備菜」など、家庭での工夫を伝えてはどうか ○ スーパーに「朝ごはんメニュー」や「ミールキット」が配置されていたらよい
減塩	○ 減塩のイメージ改革 減塩＝「うす味でおいしくない」というイメージを変える ○ 「おいしい減塩料理」を実際に食べて体験・記憶する（舌で覚える） ○ 低年齢からのすりこみが必要（保育・学校現場での実践） ○ 学校給食センターで麺類を提供する日は汁まで飲んでもよい塩分量に調整している ○ 減塩レシピや給食レシピを共有する（SNSやホームページで） ○ 企業とタイアップして地産地消&減塩商品を開発してはどうか ○ 塩分量が可視化してあるとよい
共食	○ 食べることを「楽しく・おいしく」感じる教室で関心を高める
会津の食文化	○ 中学1年生の家庭科の授業でこづゆ作りをしている学校もある ○ 3世代家庭ではこづゆを作る機会があるが、そうでないと機会が少ない ○ 福島県立博物館では郷土料理の食品サンプル作りをした
男女参画	○ 父親が家事に参加する家庭も増えたが、母親に偏りがある家庭も多い。みんなが家事に参加できるようになったらよい。
こども	○ 学校だけでは限界がある。親の意識を高める必要がある ○ 18時半に部活動が終わり、家に着くのが19時。それから塾やスポーツクラブに行くこどももいる。いつ夕食を食べるのかと思う。 ○ 学校での食育は、学習指導要領、自分手帳の活用が軸となる
デジタル	○ インスタグラムやフェイスブックで飲食店の紹介投稿をする際に、市も共同発信をして飲食店を応援してほしい。（一つの投稿を飲食店と市とが共同作成者として発信） ○ ターゲットに合わせた媒体を活用する（若者→動画、保護者→LINE など） ○ 「#私の減塩」「#作ったよ」ハッシュタグを活用した食育の記録を共有する ○ ストーリー性のある短い動画を作成すれば、興味を持つ人が増えるのでは ○ 健康・食育に関するお店をSNSで紹介したらどうか